

鳥獣の被害対策

イノシシの増減傾向を探る！

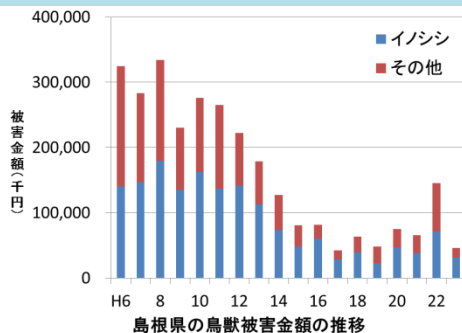
～出猟カレンダーと捕獲個体の年齢分析～

研究の背景・目的

鳥根県では農林作物被害の軽減を図るため、「特定鳥獣保護管理計画」をH14年から施行し、これまで個体数の管理（捕獲目標15,000頭/年）と被害対策について総合的に取り組んできました。

近年の被害は減少傾向にあるものの、依然として鳥獣被害の過半を占めています。

そのため、「特定鳥獣保護管理計画」の施行による個体数や農林作物被害の低減への効果についてのモニタリング調査を実施していきます。

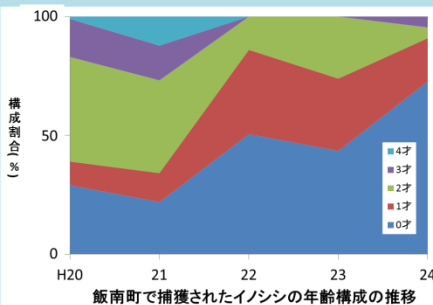
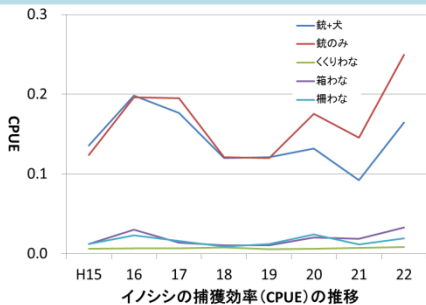


研究方法

- ハンターが記録した「出猟カレンダー」の分析から県下のイノシシ個体群の増減傾向などを推測します。
- 飯南町で捕獲されたイノシシの年齢、性別、体重等を調査し、捕獲実態や捕獲による影響を分析します。
- 飼育イノシシを用いて、食べられにくい作物の検索や複数の防護柵の組み合わせによる侵入防止効果を検証します。

研究状況

- 近年のイノシシの捕獲頭数は10,000頭前後で推移しています。また、出猟カレンダーの分析から、捕獲効率（CPUE：イノシシの生息数の指標）を算出したところ、H22年に増加しており、県下のイノシシの生息数が増えていると考えられます。
- 飯南町で捕獲されたイノシシの年齢は年々と若齢化していることが認められました。
- 飼育イノシシに対して、ヤーコン、ニンニク、トウガラシ、シソを与えてみたところ、ヤーコン以外の作物が食べられにくいことがわかりました。



研究成果の活用・今後の研究計画

各種のモニタリング調査の結果は、鳥根県有害鳥獣被害推進協議会や行政機関へ提供し、「特定鳥獣保護管理計画」による施策の効果を検証するとともに、次期の「特定鳥獣保護管理計画」の策定などに役立てます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
鳥根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 鳥根県飯石郡飯南町上来島1207

試験研究課題名：イノシシの保護管理と被害対策のモニタリング調査（研究期間：H23～28）

担当グループ：鳥獣対策グループ

研究担当者：菅野 泰弘（すがの やすひろ）

問い合わせ先：0854-76-3819

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp

